



「2人3脚」では、看護師、介護福祉士、ケアマネジャーなど介護の専門家が利用者の方のケアを行います。私自身が看護師ですから、すべての方の情報を細かく記入し、看護師レベルでの記録を取ることは徹底しています。鷹岡病院をはじめ、医療機関との連携も取れていて、先生にはいつでも情報提供できるようにしていますし、利用者さんの日常の変化についてお伝えすることも可能です。点滴や痰の吸引、在宅酸素療法などを施すこともできるので、なかには病院では落ち着かないと、2人3脚に入院し治療をされる方もいらっしゃいます。

20名以上の方を診ていただいていますから、現在は先生も認知症の方一人ひとりへの対応の仕方を理解してくださっています。以前は利用者さんを連れて医療機関を1日に何往復もすることがあったのですが、先生のほうから「往診しましょうか」と言っていただき、現在は往診に来ていただいているんです。

以前、ある利用者さんがよく転ぶのが目につくようになったことがあったんです。何で転ぶのかな、おかしいなと思っていて、その方のかかりつけの先生に診ていただいたのですがよくならない。それでいつもここに来ていただいている先生に診てもらったところ、肺炎だと分かったんです。認知症の方は、苦しくてもそれを訴えることができないんです。転んでいたのは、痛いところがあって体が思うように動かなかったから。でも、高齢者の場合、肺炎でも高熱がでるわけではなく分かりにくいんです。この方の場合、ここにいるときの食事の様子や身体の変化を記録していたことと、先生もその方のことを普段からよくご存じだったことで発見につながったんです。

スタッフの中には、看護師の下で医療面についても勉強したいからと「2人3脚」で働き始めた人もいます。人材育成も大切ですから、定期的にスタッフ会議や勉強会を行い、よりよいケアが行えるように努めています。

スタッフとともに自らも学ぶ姿勢をもって活動
